

平成29年度

施策・事務事業に対する提言書

丹波市議会

平成29年度 施策・事務事業に対する提言

【総務常任委員会】

まちづくりの目標	施策目標	事務事業名	施策・事務事業に対する議会の提言
5 ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち	5-2 【教育環境】 子どもたちが安心して通い、楽しく学べる教育環境をつくろう	学校適正規模・適正配置計画事業	1 「適正規模・適正配置に関する協議を契機として、子どもたちのよりよい教育環境を協議検討する中で、新しい学校のあり方、地域コミュニティのあり方について議論を深めること」が目的とされる以上、地域の理解は必要不可欠であり、地域との合意形成には細心の注意が必要である。よりよい教育環境の実現に向け、広く地域住民の意見を聞く場を設けるなど、状況に応じた柔軟な対応をすること。
8 計画的かつ効果的な行政経営の実施	8-1 市民のニーズに合った行政運営	広報広聴事業	1 広報活動は積極的に行われているが、関心の高い層・低い層、それぞれへのアプローチができていないかの検証も必要ではないか。若者も交えたモニター制度の導入など、意見を聴取し反映させる方策などを検討してはどうか。 情報を受け取った相手にその後どのように行動してもらいたいかを思い描きながら広報活動を行うとともに、シティプロモーションや子育て支援、移住定住等、外部への情報発信が必要な部署が連携した広報戦略にも取り組むこと。

平成29年度 施策・事務事業に対する提言

【民生常任委員会】

まちづくりの目標	施策目標	事務事業名	施策・事務事業に対する議会の提言
2 誰もが住みたい定住のまち	2-7 【ごみ処理】 ごみの分別を徹底し、環境に配慮した循環型社会を形成しよう	—	<p>平成29年度の山南地域を含む丹波市全体の焼却実績量は、15,383 tとなっており、「一般廃棄物処理基本計画」（平成29年3月策定）における平成29年度計画焼却量（13,311 t）を大きく上回っている。</p> <p>引き続き、ごみの分別を徹底し、環境に配慮した循環型社会形成のために、以下の取り組みを進めるよう提言する。</p>
			<p>1 平成39年度以降、篠山市清掃センターで処理している山南地域の焼却量が、丹波市クリーンセンターに加わることから、実態を反映した的確な丹波市全体の焼却計画量を想定（推計）することが必要である。このため、早期に「一般廃棄物処理基本計画」の見直しを行うこと。</p>
			<p>2 生ごみ「たい肥化」の実証実験は、1年を経過しているが、その分析結果や課題を示し、生ごみ「たい肥化」についての方向性を明らかにすること。</p>
			<p>3 ごみの資源化をさらに向上させるために、すでに始めている「雑紙」の資源化の徹底や「布団」のリサイクル化など一層の定着に向け、取り組みと啓発を強化すること。</p>
			<p>4 「食品ロス」削減の取り組みを進めるために、飲食店への啓発ポスターの掲示やその協力店を登録制にして市のホームページで紹介するなど、「30・10（さんまるいちまる）運動」を市内全体に広げること。</p>
4 美しい自然と環境を大切にす源流のまち	4-1 【環境保全】 市民ぐるみで環境保全を進め、快適で住みよい丹波市にしよう	斎場管理運営事業	<p>1 火葬業務について、「平成30年度に火葬の業務委託方法について検討し決定する」としているが、メリット、デメリットを明らかにし慎重に検討すること。</p> <p>2 2つの斎場は施設設置後15年以上経過しており、火葬炉の全面改修など施設の老朽化による更新時期を迎えている。地元との協定もあと10年前後となっていることから、将来的な施設統合も視野に入れた対応をすること。</p>

平成29年度 施策・事務事業に対する提言

【産業建設常任委員会】

まちづくりの目標	施策目標	事務事業名	施策・事務事業に対する議会の提言
6 丹波力を活かした 創意ある元気なまち	6 - 2 【農林業】環境創造 型農業や循環型林業で丹波 ブランドを高めよう	担い手農業者への支援事業	<p>1 事務事業評価シートの評価（CHECK）がすべてA評価となっているが、各支援制度が本事務事業の目的とする農業の振興に効果があったのか、現在の成果指標では分からない。効果の確認として、担い手農業者数（認定農業者数、集落営農組織数等）や耕作地面積等を指標にすること。</p> <p>2 本事務事業の目的である担い手農業者の育成においては、次世代の育成事業の継承が重要である。現在、新規就農者は支援されているが、専業農家で親元での就農（親の後を子が継ぐ場合等）する人への支援も必要である。</p>
	6 - 3 【観光】おもてなし で来訪者を迎え丹波市の魅 力を伝えよう	指定管理者導入施設管理 事業（恐竜・観光）	<p>1 薬草薬樹公園は、指定管理施設の中でも高額な指定管理料となっているが、利用客は横ばいの状況である。原因の一つとして施設の老朽化が考えられるので将来を見据えた大規模改修も検討の必要があるのではないかと。また、更なる経営努力を求めるとともに公募にあたっては、薬草や研究機能を持った入浴剤を扱う専門業者等の参入も次の公募で検討すること。 なお、利用が非常に少ない民間借用地については早急に契約解除すること。</p> <p>2 ゆり山スカイパークは青垣地域では宿泊が可能な貴重な施設であるが、民間譲渡に向けて計画する時期が近づいているのではないかと。今後大型バスが駐車できる場所の確保やある程度大型改修を市の負担で行い、ゆり山スカイパーク全体の民間譲渡を検討すること。</p>